

# 社会資本整備審議会 道路分科会 関東地方小委員会 (令和5年度第1回)議事概要

1. 日 時 令和5年11月27日(月) 11:00～12:05

2. 場 所 WEB会議形式

3. 出席者

[委員長]

屋井 鉄雄 (東京工業大学特命教授・名誉教授)

[委員]

秋葉 正一 (日本大学生産工学部土木工学科教授)

大下 茂 (帝京大学経済学部観光経営学科教授)

鬼沢 良子 (NPO法人「持続可能な社会をつくる元気ネット」理事長)

久保田 尚 (埼玉大学大学院理工学研究科教授)

佐々木 淳 (東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)

谷口 綾子 (筑波大学システム情報系教授)

二村 真理子 (東京女子大学現代教養学部国際社会学科教授)

[関東地方整備局]

道 路 部 長 野坂 周子

道 路 企 画 官 鳥澤 秀夫

道路計画第一課長 木本 悠太

4. 議 事

(1) 挨拶

・ 関東地方整備局 道路部長

(2) 議事

・ 新広域道路交通計画に基づく高規格道路の路線指定についての検討状況(報告)

(3) その他

<委員からの主な意見等>

■新広域道路交通計画に基づく高規格道路の路線指定についての検討状況  
(報告)

- ・高規格道路の指定に向けた計画のプロセスについては、透明性を高め、早い段階から多くの方に伝えていくことが必要である。今後進めるにあたっては、自治体とも連携し、都民、県民に向けて、今の段階からメッセージが伝えられるようなマネジメントをしていただきたい。
- ・訪日外国人観光客が、東京だけでなく、地方の様々なところへ回遊するにあたって、高速バスネットワークが大事であり、その拠点としてバスタプロジェクトは非常に重要であると認識している。
- ・核都市広域幹線道路は、業務核都市を直接連結するという機能を持つ極めて重要な道路であり、都市を連結するという機能を前面に出し、将来的には自動運転の高速バスが走行するような路線としていただきたい。その観点で見ると、路線の機能としてはネットワーク補完ではなく、拠点アクセスや地域連携をメインとした方が良い。
- ・自動物流道路（オートフロー・ロード）は物流危機への対応として非常に重要である。この先具体化する上で、荷主による使い方の議論も必要であり、国交省内だけでなく省庁間連携が必要である。
- ・道路構造というところで、自動運転における自動車専用レーンの整備、電気自動車の利用増、無線給電、さらには、今は認められていないが舗装に太陽光パネルを設置するなど、今後はそのようなものを考慮して政策を計画していく必要がある。
- ・「ワイズネット2050」で示されている様々な新たな施策について、関東など身近なところでどのように落とし込んでいくのかが見えてくると議論が深まるという印象を受けた。
- ・「ワイズネット2050」について、ホームページにアクセスして初めて知るということでなく、道の駅などでこのような取り組みを紹介することで、一般の方の道路への関心も高まると思うので、広く広報することを考えていただきたい。
- ・「ワイズネット2050」の高速自転車道が印象的である。まずは自転車事故等を踏まえれば、安全が大事であり、交通安全施策として、自転車道や他の手段についても実現していただきたい。

以上